

国際交流・社会貢献等の概要

●海外の協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との正式な提携はない。

ただし、一昨年海外研修で訪問したニューヨーク市立大学ラガーディア校とはインターンシッププログラムを実施する運びとなっており、先方から希望する学生がいるとのことであったため、本学の受け入れ態勢を整わせ、部分協定を締結するところまでの対応を進めていた。しかしながら希望していた本人が直前になり辞退する旨告げてきたので、そのまま保留となっている。希望者がいるかどうかにかかわらず、双方で受け入れが可能となるような仕組みを検討し、プログラム実施に向けた協定の締結をすべく準備を進めている状況であり、平成 29 年度末には再度ニューヨーク市立大学ラガーディア校を訪問し、双方の国際交流活動推進のための具体的方策等について検討を行う予定である。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内 5 大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成 27 年度から 5 大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同して行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。

●産学官連携

○包括連携協定等の締結

上武大学では平成 26 年度から平成 28 年度にかけて、地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力する為の協定を群馬県内各自治体と結んだ。まず平成 27 年 2 月に伊勢崎市との協定をとりまとめ、続いて玉村町、富岡市、渋川市、藤岡市の大学近隣 5 市町村との包括協定を順次結んでいる。協定締結以前から協力関係にあった上武大学と近隣市町村であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。

具体的には富岡市との文化交流事業の一環で、本学手がき文化研究所主催の絵手紙展を富岡製紙場及び富岡市立美術館において開催し、スポーツ交流事業では富岡市主催の競技会（妙義山ビューライド）で本学トレーナー志望の学生らによる出場選手への競技サポートを行った。また渋川市においてもスポーツ交流事業として、本学陸上部の市民向けイベントでの競技指導や、スポーツ関連公開講座における講師の派遣を行っており、

地域に根差した大学の役割を果たしている。

なお高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

○文部科学省主宰「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的にに関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する参加校として連携し、平成 27 年度補助事業の採択を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率が、5 年後に 10%上昇することを目途とし、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

本学ではこの取り組みにおいて、県内の企業を学生達に紹介するためのコンテンツ製作を行うこととしており、地元メディア（上毛新聞社等）の協力を得ながら、学生達と共同で製作を進めている。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、市内の公民館有効活用の方策を提言する取り組みを実施することとなった。これは本学の専門ゼミの教員と学生が渋川市の市民の方々へのアンケート調査などを実施しながら、市内にある公民館の利用状況や存在意義などを取りまとめ、これに基づく提言を行っていくものである。なお渋川市からはこの調査研究に関する補助金も交付されている。

●社会貢献活動

○公開講座

- ・上武大学手がき文化研究所第 4 回公開講座「三輪田米山」

平成 28 年 10 月 9 日（日） 高崎キャンパス

講師／小池邦夫（上武大学手がき文化研究所所長）

小池所長を講師とし、一般参加者のほか、運動部学生など県内外の約 400 名が受講。実技では会場前方に設置された米山の大きな幟を手本に、配布された布に大きな一字を書いた。布に字を書く機会はなく、新鮮な体験となった。

- ・スポーツアカデミー in JOBU

平成 29 年 2 月 26 日（日） 伊勢崎キャンパス

講師／植木繁晴（上武大学サッカー部監督）、佐俣智彦（上武大学バスケットボール部監督）、上村孝司（ビジネス情報学部講師）、二橋元紀（ビジネス情報学部講師）

将来のアスリート育成を目的に、近隣の小学生とその保護者の方を対象に行われた。参加児童は本学監督・コーチ・学生からサッカー、バスケットボールの直接指導を受け、局面ごとの実践的な動きを体験した。また、保護者には「スポーツとコンディショニング」、「成長期のスポーツ障害」をテーマに講演が行われた。

・小池邦夫公開講座

平成 29 年 5 月 6 日（土） 富岡市立美術博物館

講師／小池邦夫（上武大学手がき文化研究所所長）

富岡市との連携協定の一環として、富岡市出身の女優・風見章子さんの絵手紙が多数展示される中、小池所長と風見さんとの絵手紙を通じた交流をテーマに、絵手紙の基本的な考え方について講演を行った。

○授業等を通じたボランティア活動

・高崎駅西口だるま広場での募金活動

平成 28 年 4 月 23 日（土）10 時～12 時

学生 14 名参加

高崎駅西口広場にて吹奏楽部の演奏とともに熊本地震の被災者への義援金募集活動を実施した。

・第 28 回たかさきスプリングフェスティバル

平成 28 年 4 月 29 日（金）8 時～16 時

学生 2 名参加

市民芸能祭のフェスティバルのオープニングのステージ作り、出演者との連絡などを担当し、焼きそばや飲み物の販売も行った。

・上武大学内での募金活動（熊本地震に際しての義援金募集）

平成 28 年 5 月 2 日（月）～5 月 12 日（木）、5 月 16 日（月）

学生 6 名参加

熊本地震の義援金募集活動を学内で実施した。対象は、昼休みに学生食堂に集まった不特定多数の学生や各運動部。

・高崎市新町七夕まつり、「駅からハイキング」、オトナヨミセ

平成 28 年 5 月 19 日（木）、6 月 2 日（木）、6 月 30 日（木）、7 月 1 日（金）～7 月 3

日（日）

学生 40 名、教員 2 名参加

「七夕まつり」について。準備段階において、教員と学生が祭りの企画・運営について検討し、祭りの計画案等を作成した。また、祭りの当日、テントや看板の設営や販売活動等に参加した。

「駅からハイキング」について。事前準備において、ハイキングマップや目印看板の設置作業を実施。当日は、一般の参加者の誘導と史跡説明、さらに、上武大学内で絵手紙ギャラリー&ミュージアムの見学と絵手紙体験活動を行った。

「オトナヨミセ」について。参加学生が会場整備、各種販売、音楽イベントの支援等を実施した。

- ・群馬整肢療護園 夏祭りボランティア

平成 28 年 6 月 25 日（土）

学生 6 名参加

利用者の車いすの移動介助やお店での買い物の手伝い、催し物会場での付き添いを行った。

- ・壬生町おもちゃ博物館、壬生わんぱく公園へのバス旅行

平成 28 年 8 月 10 日（水）

学生 6 名参加

学童保育所第 2 小夏期行事「バス旅行」にて、児童の引率や班活動の補佐を行った。

- ・群馬県戦没者追悼式でのボランティア活動

平成 28 年 8 月 15 日（月）8 時 30 分～14 時

学生 2 名参加

終戦記念日に開催される群馬県主催の戦没者追悼式に際し、参加学生は遺族・関係者への配布物の準備、受付、弁当配付、後片付けを行った。

- ・医療法人群栄会田中病院でのボランティア活動

平成 28 年 8 月 26 日（金）

学生 4 名 教員 2 名参加

精神看護学実習施設である田中病院内広場にて開催された納涼祭に際し、模擬店販売の補助、患者のレクリエーション参加誘導の補助、患者のレクリエーション参加誘導の補助、片付けなど、運営の手伝いを行った。

- ・第 18 回ぐんま環境フェスティバル、適正処理・温暖化防止県民の集いでのボランティ

ア活動

平成 28 年 10 月 1 日（土）

学生 10 名 教員 1 名参加

会場の設営と来場者の案内・資料配布、配付資料の準備、企業・行政・大学等事業展示支援、学会基調講演等のイベント支援を行った。

- ・上武大学附属幼稚園での運動会でのボランティア活動

平成 28 年 10 月 2 日（日）7 時 30 分～13 時

学生 9 名参加

上武大学附属幼稚園での運動会にて運動会の運営補助活動を行った。

- ・しんまちフェスタ 2016

平成 28 年 10 月 16 日（日）

学生 14 名参加

1 名の学生が新町フェスタ実行委員会に参加し、ボランティアの役割分担など打ち合わせを行い、祭りの当日は学生参加者の仕事の割り振りや進捗に力を注いだ。

- ・第 17 回しんまち商工会 2016・第 21 回しんまち大道芸まつり・第 19 回新町ふるさと祭り神流川合戦

平成 28 年 11 月 6 日（日）

学生 37 名 教員 1 名参加

祭りの準備段階において、学生 6 名と教員が新町商工祭実行委員会に参加し、祭りの企画と計画作りに参加した。また、当日は、3 グループに分かれ、テント配置、ステージの設営準備、鼓笛隊先導、大道芸支援、楽器運搬、会場清掃、武者行列、テントやテーブル、イスの片づけを実施した。

- ・上武大学附属幼稚園行事でのボランティア活動

平成 28 年 12 月 3 日（土）7 時 30 分～13 時

学生 13 名参加

上武大学附属幼稚園が開催した「発表会」において、運営の補助を行った。

- ・高崎市立新町中学校における学習支援

平成 28 年 5 月から平成 29 年 2 月にかけて計 21 日間 15 時 30 分～16 時 30 分

学生 8 名参加

高崎市立新町中学校にて、小学校の復習及び中学校で既習した数学と英語の学習内容を中心に基礎的な問題を生徒自身のペースで取り組むための支援と補助を行った。

- ・新町デイサービスセンターにおけるボランティア活動
 平成 28 年 5 月以降の毎週金曜日
 学生 2 名参加
 家庭の事情などで塾や学習にお金をかけることができない児童（小学校 4 年生～6 年生の 4 名）を対象に、学習サポートを行った。
- ・群馬整肢療護園でのボランティア活動
 平成 29 年 6 月 24 日（土）
 学生 12 名参加
 参加学生は、利用者の車いすの移動介助、お店での買い物の手伝い、催し物会場での付添いを行った。
- ・高崎市新町七夕まつり
 平成 29 年 5 月 11 日（木）、6 月 2 日（金）、6 月 20 日（火）、7 月 7 日（金）～9 日（日）
 学生 31 名 教員 1 名参加
 5 月 11 日、6 月 2 日、20 日に七夕祭り実行委員会が開催され、教員と学生 3 名が参加。祭りの企画・運営について検討し、祭りの計画案等を作成した。また、7 月 8 日、9 日の祭りの当日は 31 名の学生が参加し、テント・看板の設営やかき氷、飲料水、抽選コーナー、ごみ袋販売を行った。

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等支援学校の 4 校とは高大連携協定を締結している。内容的には高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の協働研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援などであるが、このうち榛名高校においては、高校側からの要望を受けて、本学における絵手紙の活動を高校生にも体験してもらう授業を実施した。その結果毎年 4 月の新入生、また榛名高校も加わっている県内「家庭クラブ」の研修会において、各高校からの代表者らおよそ 70 名に対しても、同様に絵手紙体験を実施した。また群馬県立勢多農林高等学校からも生徒らに絵手紙を教授してもらいたいとの要望を受けて、2 年生およそ 240 名に対して特別授業を実施した。高校側とはこの先の高大連携も考慮し、引き続きいろいろな取り組みを行っていくことを検討している。

○地域との連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を

締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、小学生らの通学路における防犯パトロールなどがあり、その他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、「よみがえれ！新町紡績所の会」とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。

なおこうした学生たちの積極的なボランティア活動を大学としても評価しており、「社会貢献実践」という新たな授業科目を導入し、学生のボランティア活動に対して単位も付与している。またこれらを取りまとめる組織として、大学には新たにボランティアセンターも設置している。

○国際交流活動の推進

手がき文化研究所の活動として、絵手紙を通じた地域貢献を実践しているが、平成 27 年 2 月に大学における国際交流活動の一環として、上武大学生 9 名とともにパリ日本文化会館で現地のフランス人を相手に絵手紙教室を実施した。絵手紙教室を受講したのはパリ日本文化会館で日本語を学ぶ人で、フランス国立東洋言語文化大学の方々を含むおよそ 30 名。同会館事務局では「平日にこれほどの参加者が集まるのは珍しい」という人気ぶりであった。教室が始まると受講生はいずれも真剣な表情で筆を持ち、フランス人ならではの豊かな色彩感覚で絵手紙を完成させてくれた。

この第 1 回目の訪問がとても有意義であり、現地においても評判が良かったため引き続き同地において実施することが決まり、平成 29 年 2 月本学学生ら 14 人で再度訪問し、同様の取り組みを行っている。この時には日本絵手紙協会名誉会長で、本学客員教授でもある小池邦夫先生も同行し、より充実した講義をパリの方々に行うことができ、本学との親密度も増したようであった。参加した本学の学生達も、初めて絵手紙の指導役となっただけ、相手はフランス人。かなり緊張していた様子であったが、何とかコミュニケーションを取ろうとする姿勢が受講生にも伝わり、英語と日本語を織り交ぜて意思の疎通を図ることができていた。この体験は学生に大きな印象を与えたようで、大学としての国際交流事業として高い評価を得ることができたため、今後継続して実施される予定である。

また同様の取り組みをニューヨークでも実施しており、平成 28 年 3 月に初めて訪問し、ニューヨーク市立大学の協力を得て、大学で日本語を学んでいる学生達に絵手紙の手ほどきを行い、本学学生達との交流もパリ同様に行った。ニューヨークでは参加したのが大学の学生達であったことから、ニューヨーク市内の案内をこの参加学生たちが引き受けてくれ、講義以外での交流が盛んに行われた。また担当の教員からは学生の日本におけるインターンシップ先として上武大学で検討してもらいたい旨要望もあり、今後の本学の国際交流活動推進のために協力を得られることは確実である。そのため平成 30 年 3 月に再度同地を訪問するとともに、インターンシップの具体的対応等について協議を行うとともに、ニ

ニューヨーク市立ラガーディア校以外の大学等教育関係機関にも働きかけ、本学の国際交流活動の具体的取り組みを推進させていく予定である。

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、国内外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際に、著名な製薬企業である米国の Eli Lilly 社から、商業的価値あるものの開発のため研究用マテリアルの譲渡依頼があり、これに対しては有償の譲渡を行った。また、ハーバード大学をはじめとする大学・研究機関からは過去 5 年間で 30 件ほどの成果物の譲渡依頼があり、これらに対しては無償譲渡をおこなっている。

さらに、産学連携としてデンカ生研（株）と妊娠高血圧症候群の新規診断法開発をめざした 3 年間(2015-17)の共同研究契約を結び、研究費の提供を受けて開発を進めている。本新規診断法の基礎部分については開発がほぼ終了し、知的財産の確保を目指している。大学間では、東京大学、北里大学と共同研究契約を締結して研究を進めている。

国際交流として、2015 年にはトルコの医科大学生を夏季研修生として受け入れ、40 日間研究を指導した。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

・学長

公益財団法人 武田科学振興財団理事、公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団理事、兼、研究費審査委員会委員、公益財団法人 微生物化学研究会研究アドバイザー、公益財団法人 高松宮妃癌研究基金学術委員、独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒト由来試料実験倫理委員会部会長、公益財団法人 がん研究振興財団評議員、第 36 回日本リンパ学会総会招待講演、平成 24 年度日本生化学会関東支部例会特別講演、第 3 回がん微小環境に関する国際シンポジウム（中国、清華大学）招待講演、北京大学・特別講演（2015）、平成 28 年度宮城がんセンター・特別講演、金沢大学がん進展制御研究所・特別講演、第 81 回日本循環器学会・真下記念講演、平成 29 年度韓国ソウル大学 J-S Seo 教授 定年退官記念国際シンポジウム招待講演など

・公的研究（科学研究費）関係

公的研究費の獲得にも力を入れており、競争的研究資金である科学研究費補助金（科研費）については、代表研究者として平成 27 年度 9 件、平成 28 年度 8 件、平成 29 年度 7 件が採択されている。